

います。然も、一方に古來とかく模倣に流れ勝ちで、周到緻密な思考を重ね、いわゆる獨創の工夫を積むことの努力に比較的缺けておつて、その結果、如上の評家の言を甘受せねばならぬような弱點もあつたことを認めなければならぬとも思います。これは思うに、長く世界から離れて島國の小天地に立てこもり、諸國諸民族に伍して自らを鍛錬し苦悶する機會に遭遇しなかつた事情によるのでありましょう。ただ、その能力如何という點については、前にも觸れたように、傍近諸民族に比して遙に優秀性を證示しているのみならず、今の世界の舞臺に立つても、多くの輝かしい業績を示していることは、ここに更めて申しのべるまでもないことであります。われわれはわが文化發展史の初期に屬する飛鳥・奈良時代を回想するにつけても、向後ただ歐米文化の輸入に勉めるばかりでなく、それを他山の石として、優秀なる先人が成就すべくして未だ大いに成就し得なかつた、わが獨創文化の開發を期さねばならぬと思うのであります。

(飛鳥奈良朝時代の文化、昭和三十年五月)